

オプジーボ療法の治療をお受けになる方へ

★治療スケジュール 症状や経過に合わせて治療スケジュールが変わることがあります。

お薬の名前	1日目	2～14日目
オプジーボ (ニボルマブ)	 30分	お休み

★注意すべき副作用 これらの副作用が、すべての方に起こるわけではありません。

間質性肺疾患

空気を取り込む肺胞という器官が炎症を起こす病気です。初期症状は、息切れ、発熱、痰のない乾いた咳（空咳）、疲労などがあげられます。これらの症状に気付いたら自分で対処せず、すぐに医師、看護師、薬剤師に連絡して下さい。また、60歳以上の方や肺の病気や手術をしたことがある方、呼吸機能が低下していたり酸素を投与している方、肺に放射線を照射したことがある方、腎障害のある方は間質性肺疾患が起こりやすい可能性があるため特に気を付けましょう。

重症筋無力症、心筋炎、筋炎、横紋筋融解症

神経から筋肉への情報の伝達がうまくいなくなる病気です。よく現れる症状は、繰り返し運動で疲れやすい、足や腕に力が入らない、ものが二重に見える、まぶたが重い、筋肉痛があるなどです。症状が急激に悪化し、息がしにくくなることもあります。

大腸炎、重度の下痢

下痢や、大腸に炎症が起こる大腸炎を発症することがあります。初期症状は、下痢、排便回数の増加、腹痛、血便です。発熱を伴うこともあります。

1型糖尿病

1型糖尿病を発症することがあり、インスリン注射による治療が必要になることがあります。定期的に血糖値検査を行います。急速に進行する場合があります。1週間前後で意識障害等が現れることもあります。よく現れる症状として、からだがだるい、喉が渇く、体重が減る、水を多く飲む、尿の量が増える、吐き気や嘔吐があるなどです。

肝機能障害、硬化性胆管炎

血液中の肝酵素（AST,ALT,総ビリルビン値など）の数値が基準値より高くなります。定期的に肝機能検査を行います。よく現れる症状は、皮膚や白目が黄色くなる、いつもより疲れやすいなどがあげられます。

甲状腺機能障害

新陳代謝を活発にする甲状腺ホルモンなどを分泌する内分泌器官に炎症を起こして、甲状腺中毒症、甲状腺機能低下症などの甲状腺機能障害を発症することがあります。定期的に甲状腺機能検査を行います。よく現れる症状は、いつもより疲れやすい、体重増加や体重減少、イライラしたり物忘れをしやすいなど行動の変化がある、脱毛などです。

神経障害

神経に炎症が起こり、感覚や運動に関わる神経が障害される病気です。よく現れる症状は、手足の痺れ、手足の痛み、運動麻痺、感覚麻痺などがあげられます。

腎障害（腎不全、尿細管間質性腎炎）

腎臓に炎症が起こる腎炎を発症することがあります。定期的に腎機能検査値（クレアチニン等）の測定を行います。よく現れる症状は、むくみ、貧血、発熱、尿量が減る又は出ない、血尿などがあげられます。

副腎障害

副腎機能が低下することで血糖値が下がることがあります。急性の場合は意識がうすれるなどの症状が現れることがあります。定期的に血液検査（ACTH、コルチゾール等）の測定を行います。よく現れる症状として、からだがだるい、吐き気や嘔吐がある、ムカムカする、食欲不振などがあげられます。

脳炎

脳や脊髄に炎症が起こる病気です。精神障害や意識障害が起こることがあります。よく現れる症状は、発熱、嘔吐、失神、精神状態の変化がある、体の痛みなどがあげられます。

重度の皮膚障害

皮膚や粘膜など、全身に広がるような重度の皮膚症状が起こることがあります。よく現れる症状として、全身に赤い斑点や水ぶくれが出る、体がだるい、発熱、ひどい口内炎、まぶたや眼の充血、粘膜のただれなどがあげられます。

静脈血栓塞栓症

静脈でできた血のかたまりが血流にのって流れて行き、他の場所の血管をふさいでしまう病気です。肺の血管が詰まると呼吸が出来なくなることがあります。よく現れる症状として、むくみ、皮膚や唇、手足の爪が青紫色～暗褐色になるです。

Infusion reaction

オプジーボの投与中または投与後24時間以内に発熱、悪寒、ふるえ、かゆみ、発疹、高血圧や低血圧（めまい、ふらつき、頭痛）、呼吸困難などが現れることがあります。点滴中や点滴後24時間以内にこのような症状が出たら、医師、看護師、薬剤師にすぐに知らせましょう。

免疫性血小板減少性紫斑病（ITP）

※ここに記載した副作用以外にも、体の異常を感じたら病院にご連絡ください。

国立病院機構 東京病院 042-491-2111(代表)